

タイトル：施設ギクの養液土耕栽培における灌液回数

[要約]

施設ギクの養液土耕栽培における灌液回数は、根の分布と根量に影響し、1日1回灌液に比較して1日3回灌液において畝内の根の水平分布が均一となり、切り花長のそろいが良好となる。

香川県農業試験場 小豆分場

[連絡先] 0879-75-0033

[部会名] 野菜・花き・茶（花き）

[専門] 環境保全

[対象] 花き類

[分類] 指導

[背景・ねらい]

養液土耕栽培における適正な灌液技術を確立する為、1日の灌液回数が根の分布に及ぼす影響を調査すると共に、生育と収量性に及ぼす影響を調査する。

[成果の内容・特徴]

1. 畝中央に1本の点滴チューブを設置した場合、畝内の根の水平分布は1日の灌液回数によって異なり、1日1回の場合には株の定植位置で多く、点滴チューブ直下の畝中央で少なくなる。しかし、これを3回に分けることで畝中央にも均一に分布し、2度切り栽培では総根量が増加する(図1、2)。
2. 切り花本数は1、2番花ともに灌液回数の影響は認められない。しかし、切り花長は1日の灌液回数を3回に分けることで均一になり、長くなる。(表1、2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本県島嶼部畑作地帯に多い花崗岩風化土壌畑に適応可能である。
2. 栽培時期別の適正灌液量については別途検討が必要である。

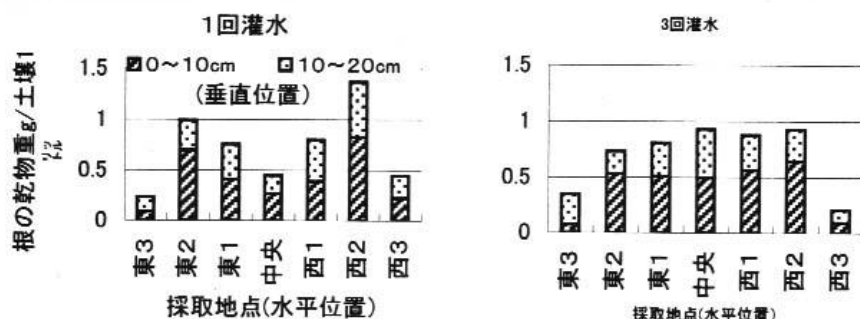


図1 灌液回数が根の畝内位置別分布量に及ぼす影響(品種:精雲)

定植:1998年5月27日。灌液量:2mm/日。摘心栽培。栽植方法は畝幅120cm、条間35cm、10cmの2条植え。灌水チューブは畝の中央(条間)に1本設置。土の採取は開花後に行い、南北畝の中央部及び畝中央の灌水チューブから東西に10、20、30cm離れた地点(それぞれ東西1、2、3地点)で10cm立方の土壌を採取。

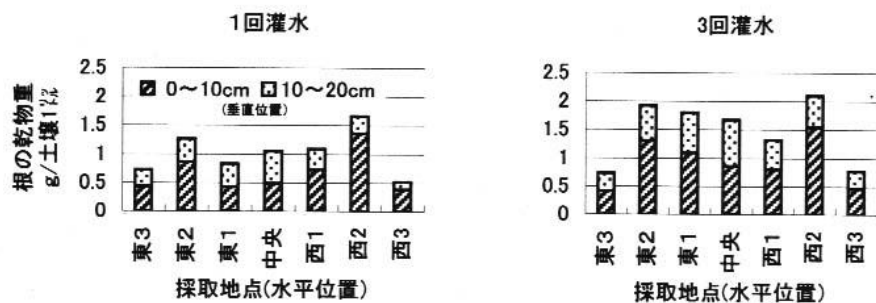


図2 灌液回数が根の畝内位置別分布量に及ぼす影響(品種:秀芳の力)

定植:1998年10月29日。灌液量:2mm/日。無摘心栽培。栽植方法は、畝幅120cm、条間12-24-12cm、株間8cmの4条植え。灌水チューブは畝の中央に設置。

表1 灌液回数と収量及び切花品質(品種:精雲)

灌液回数	切花本数 (本/株)	切花長 (cm)	切花調整重 (g)
1	2.1	94±4	50±11
2	2.0	96±6	51±11
3	2.0	99±5	58±14

定植:1998年5月27日。灌液量:2mm/日。±標準偏差。

表2 灌液回数と収量及び切花品質(品種:秀芳の力)

灌液回数	1番花			2番花		
	切花本数 (本/m ²)	切花長 (cm)	切花調整重 (g)	切花本数 (本/m ²)	切花長 (cm)	切花調整重 (g)
1	33.7	102±7	54±12	42.0	116±5	60±25
3	32.6	105±5	54±12	42.4	116±4	59±20

定植:1998年10月29日。灌液量:2mm/日。±標準偏差。

[その他]

研究課題名:21世紀に向けた特産キクの新省力栽培技術体系の確立

予算区分:県単

研究期間:平成12年(平成10年~11年)

研究担当者:松本由利子、藤村俊夫、高木真人

発表論文等:なし